

家庭科	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	新学習指導要領に向けて (移行措置対応を含む)
1年	<p>【生活や技術への関心・意欲・態度】 ○多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【生活を工夫し創造する能力】 ○生活について見直し、課題を見付ける場面を設ける必要がある。</p> <p>【生活の技能】 ○個々によって生活力に差がある。</p>	<p>【生活や技術への関心・意欲・態度】 ○1時間の授業の流れがわかりやすいワークシートを用意し、誰もが自分の意見を言える発問を用意する。</p> <p>【生活を工夫し創造する能力】 ○授業の最後にその日の学習内容に関する課題を提示し、次週までに行うようにする。</p> <p>【生活の技能】 ○実習や実験などを多く取り入れる。</p>	<p>【内容項目】 ○「食生活についての課題と実践」に向けて、食品と栄養素の関係、6つの基礎食品群について、きちんと理解できるよう指導していく。</p>
2年	<p>【生活や技術への関心・意欲・態度】 ○多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【生活を工夫し創造する能力】 ○生活について見直し、課題を見付ける場面を設ける必要がある。</p> <p>【生活の技能】 ○個々によって生活力に差がある。</p>	<p>【生活や技術への関心・意欲・態度】 ○製作活動では、1時間の課題を設定し、達成感を得られるようにする。</p> <p>【生活を工夫し創造する能力】 ○製作活動では、1時間の活動を振り返り記入する時間を設け、次の時間への課題を見付けられるようにする。</p> <p>【生活の技能】 ○製作活動の時間をできるだけ設け、実技テストを実施する。</p>	<p>【内容項目】 ○「衣生活又は住生活についての課題と実践」に向けて、「日常着の手入れ」及び「布を用いた物の製作」に力を入れ、指導していく。</p>
3年	<p>【生活や技術への関心・意欲・態度】 ○真剣に授業を受けている生徒がほとんどであるが、さらに「家庭科」に関心をもたせていく必要がある。</p> <p>【生活を工夫し創造する能力】 ○自ら課題を見付け、改善する力が不十分である。</p> <p>【生活の技能】 ○個々によって生活力に差がある。</p>	<p>【生活や技術への関心・意欲・態度】 ○「消費生活」の学習では、生活に即した話題を授業の中に入れていき、家庭科の授業と自分の生活がつながっていることを感じさせる。</p> <p>【生活を工夫し創造する能力】 ○幼児のおもちゃの製作では、毎時間自分で予定を立てさせ、進度を調整させていく。</p> <p>【生活の技能】 ○製作活動を多く設ける。</p>	<p>【内容項目】 ○「家族又は幼児の生活についての課題と実践」に向けて、「幼児とのふれ合い」を見据えた指導していく。</p>